

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年(二十四)

第一章 民族主義と社会主義のうねり(八)

二十四・イスラエル独立(その一)・・・ユダヤ人の祖国建設運動(三―三)



困ったのは英国政府である。パレスチナはオスマン・トルコの支配下であり、しかもこれまで二千年にわたりアラブ人が住み慣れた土地であり、決して「民なき土地」などではない。無理に入植させれば先住民のアラブ人と紛争が起きるのは目に見えていた。

その時ユダヤ人に格好の追い風が吹いた。第一次世界大戦の勃発である。戦費調達に苦しむ英国はユダヤ人富豪ロスチャイルドに頼った。その見返りとダヤ人富豪ロスチャイルドに頼った。その見返りとパレスチナにおけるホームランド建設を英国に約束させることであった。それがバルフォア宣言である。

こうして英国はユダヤ人の資金的バックアップを得て首尾よく戦争に勝った。そしてフランスと交わしたサイクス・

ピコ協定により。パレスチナを委任統治領とした。これで。パレスチナでのユダヤ人のホームランド建設（イスラエル建国）の障害はなくなったのである。

（続く）

荒葉 一也

E-mail: Arehakahazuyai@gmail.com